

セルリー (セリ科)

南ヨーロッパ原産。鉄分を多く含む。神経を和らげ、血行をよくするといわれている。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏まき (普通のセルリー)							播種 ○	△	△	◎			収穫 ■
春・秋まき (スープ・セルリー)					○		■			○		■	

1) 適地

土質は特に選びませんが、堆肥や腐葉土などの有機物が多く入って、肥沃で水もちのよい土が適します。

2) 品種

緑茎種と白茎種がありますが、淡緑茎の品種が普及しています。

トップセラー、コーネル619

3) 作り方

セルリーは6月に播種して、8～9月に定植し、11～12月に収穫します。スープセルリーは直播き栽培します(後の枠内参照)。

【播種】播種はト口箱や野菜の育苗箱などを利用します。市販の種播き培土を入れ、条間5～6cmの浅い播き溝をつけて播種します。種が細かいのと発芽に光を必要とする性質があるため、覆土は浅くします。播種後は十分に灌水し、発芽まで新聞紙などをかけておきます。約1週間で発芽します。

【1回目仮植】本葉1.5～2枚になれば、市販の育苗培土を充填した50穴セルトレイに1株ずつ仮植します。仮植後10日目頃より、必要に応じて市販の液肥を500倍程度に薄めたものを3～4日に1回与えてもよいでしょう。

【2回目仮植】本葉4～5枚の頃、市販の育苗培土を充填した育苗ポット(直径10.5cm)に仮植します。仮植後14日目頃に、1ポットあたりIB化成2～3粒を置き肥します。

【圃場の準備】定植の1か月前に1㎡当たり堆肥5kg、苦土石灰150g、BMようりん50gを施用し、耕耘します。定植の1週間前には1㎡当たり高度化成肥料100gを施して耕耘し、幅135cmの畝を立ててマルチを張ります。9月上旬までの定植では地温抑制のために白黒ダブルマルチがよく、それ以降は黒マルチでも構いません。

【定植】本葉8～10枚の苗を条間50cm株間40cmで2条に定植します。定植後は十分に灌水します。活着までは適宜灌水すると、カルシウム欠乏による芯枯れを軽減できます。

【追肥・灌水・葉の整理】定植後10日目頃より、半月ごとに追肥を行います。1㎡当たり高度化成肥料30gを合計4回程度施します。灌水は追肥の時はもちろん、土の

表面が乾きだしたらその都度行います。2回目の追肥の後軽く中耕し、土寄せします。

定植後2か月ほどで芯葉が立ってくれば下葉の除去を2～3回行います。また、脇芽が伸びてくれば早めに除去します。

【収穫】定植後約3か月で、葉色が淡くなり葉が開き気味になれば株ごと収穫します。とり遅れると葉柄に「す」が入ります。11月中旬以降はトンネルなどで防寒します。

4) 病害虫防除

害虫としては、アブラムシ類、ヨトウムシ類、ハモグリバエ類、ナメクジ、コナジラミ類が発生します。アブラムシ類については、ウイルス病を媒介するため、特に定期的な防除が欠かせません。ウイルス病以外の病害としては、斑点病、葉枯病などが発生しますので、早めに防除することが大切です。

★スープセルリーの作り方

スープセルリーは、料理ではミツバのように使われます。普通のセルリーより耐暑、耐寒性ともに強く、生育も早いのが特徴です。ミニホワイトという品種があります。セルリーに準じて畝立てし、2～3条の条播きとします。本葉4～5枚までに株間3～5cmくらいに間引きます。間引いたものも適宜料理に利用できます。追肥は半月ごとに高度化成肥料を1㎡あたり約20g施用し、土が乾きすぎないように灌水します。草丈が20cmくらいになったら株ごと収穫しましょう。